

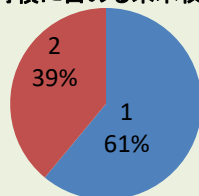
【現状・課題】

十勝管内の人工林資源は充実・利用期を迎え、伐採量全体の9割を人工林が占めている。

このような中、民有林（道有林を除く）の間伐方法は、効率的で安全性の高い列状間伐の取組は低位で、資源の有効利用につながらない切捨間伐が多い。

このため、引き続き、列状間伐と搬出間伐について、森林所有者等の理解を深めてもらい、実践につなげてもらう取組が必要。また、地域の木質バイオマス需要に応えるため、間伐に伴って発生する末木枝条等を含めた林地未利用材の有効活用を進めることが必要。

森林伐採材積に占める末木枝条等の割合



北海道林務課「上川管内の木質バイオマスの発生状況等」を元に作成

【これまでの取組・成果】

民有林（道有林を除く）での列状間伐の普及に向け（2回目間伐を含む）、国有林の列状間伐実行箇所で開催地検討会等を実施。現地検討会では国有林で実践している高性能林業機械を活用した「列状間伐と路網作設作業を組み合わせた高効率な作業システム」について一定の理解を深めてもらうことができた。

【目標】

森林所有者への収益還元のため列状間伐の拡大・普及と林地未利用材の有効利用を推進。

- ◆ 森林施業の経済性と安全性の観点から、2回目の間伐も列状間伐が優位であることの理解を深め、取り入れてもらう。
- ◆ 地域の木質バイオマス需要に応えるため、末木枝条等の林地未利用材の有効利用を進める。

【令和元年度の取組予定】

1. 市町村の林務担当者との顔の見える関係を強化し、国有林に対して気軽に相談を受け、的確に支援できるよう取り組む。また、支援にあたっては道振興局とも連携しつつ、林務担当者の森林・林業の知識が深まり、林務行政に自信が持てるようにする。
2. 現地検討会（説明会）を開催し、森林所有者や森林組合が列状間伐のメリットを理解し、不安等が払拭されることで、民有林（道有林を除く）における列状間伐の普及・拡大を図る。
3. 国有林における末木枝条等の林地未利用材の有効利用に向けた取組事例を広く紹介し、近年、再生エネルギーの一つとして注目される木質バイオマス発電への供給など、地域における木質資源のカスケード利用の推進に資する。



十勝地域林政連絡会議
（十勝西部署会議室）



署主催現地検討会
（広尾町）

【今後の取組】

- 民有林（道有林を除く）でも高性能林業機械と路網を組み合わせた効率的な作業システムに関心を持ってもらい、実践につなげてもらうことを目指す。
- 森林所有者や森林組合が列状間伐のメリットを理解し、不安等が払拭され、次年度には当署管内の8市町村の全てで2回目間伐も列状間伐が導入されることを目指す。
- 上述の目指すべき方向も踏まえ、引き続き、先駆的取組を行う国有林において現地検討会を開催し、森林所有者への収益還元のための民有林での列状間伐の拡大・普及と末木枝条等の林地未利用材の有効利用を推進し進める。

【目標】

森林所有者への収益還元のための列状間伐の普及・拡大と林地未利用材の有効利用を推進。

- ◆ 森林施業の経済性と安全性の観点から、2回目の間伐も列状間伐が優位であることの理解を深め、取り入れてもらう。
- ◆ 地域の木質バイオマス需要に応えるため、末木枝条等の林地未利用材の有効利用を進める。

令和元年度の取組

取組の内容

取組の成果

地域課題への取組に向けた情報共有と関係強化

総合振興局とは具体的な取組の検討と調整を図る十勝地域林政連絡会議を8月と3月に開催した。関係自治体（8市町村）とは直接出向いて首長及び林務担当者との情報共有と関係強化を目的に林政連絡会議を8月から9月にかけて実施するとともに、各自治体で開催の森林整備計画実管理推進チーム会議にも参画。



十勝地域林政連絡会議



帯広市森林整備計画実行
管理推進チーム会議

十勝地域林政連絡会議では令和元年度の民国連携した取組等について意見交換等を実施。市町村林政連絡会議では、①今年度狩猟期間の対応、②第5次十勝森林計画、③今年度事業概要について説明し、意見交換。限られた機会ではあるが国有林の取組について理解を深めていただき、地域の課題解決に向け、情報共有と顔の見える関係の強化が更に一歩進んだ。引き続き更なる関係強化に努めて行く。

現地検討会
の実施

列状間伐の普及拡大と林地未利用材の有効利用の推進に向け、現地検討会を8月に広尾町の豊似国有林で開催。市町村林務担当や森林組合等の民有林関係者を含め約40人が参加。高性能林業機械と路網を組み合わせた作業システムによる安全で効率的な列状間伐に取り組む現場において、枝払いと玉切り作業、支障木を伐倒しながらの作業道作設、末木枝状の積込運搬のデモンストレーションを通じた意見交換を実施。



現地検討会(意見交換)



ハーベスタによる全幹材の
枝払い・玉切り作業



フェラバンチャー付きバケットに
よる森林作業道の作設



フォワーダによる末木枝条
積込・運搬

現地検討会の冒頭で資料により、列状間伐の特徴（優れた点・留意事項等）及び北海道における木質バイオマスエネルギーの利用状況などを説明。あわせて実際の作業現場を見ることで列状間伐の普及・定着に向け、同間伐は効率的で安全性の高い施業であることの理解が進んだが、民有林においての試行までには至らなかった。引き続き推進して行く。

また、国有林の生産現場における末木枝条の有効利用に向けた取組については、空き時間を利用したフォワーダでの収集・運搬、通勤用トラックの活用によるチップ工場への搬入など、効率的な作業システムの構築が必要であるとの問題意識の共有を図ることができたが、実行性可能性の検討までは至らなかった。引き続き推進して行く。

【目標に対する達成度】

国有林の列状間伐実行箇所では現地検討会を実施。現地検討会では国有林で実践している高性能林業機械を活用した「列状間伐と路網を組み合わせた高効率な作業システム」のデモを通じて、同システムについて理解を深めてもらうことができた。

【次年度の取組予定】

民有林での列状間伐の普及・定着に向けた取組を引き続き推し進めるとともに、次年度は、民有林における再造林問題への対応も念頭に、当署における多様な森林づくりの実践箇所を例として、大型機械による地拵など低コストで効率的な森林整備の普及と定着に向けた取組を進めることとする。